

滋賀県介護のイメージアップ施策検討部会 (令和元年度 第2回)

- 日 時 令和元年10月8日(火) 14:30~16:30
- 場 所 滋賀県大津合同庁舎7-A会議室
- 出席委員 後藤委員(部会長)、東委員(副部会長)、本條委員、樋口委員、松井委員、北村委員、上村委員、澤村委員、河岸委員、鈴木委員、楠神委員、西川委員、藤田委員
- オブザーバー 寺田氏、辻さん、山路さん、村田主任主事
- 議題
 - (1) イメージアップ施策にかかる意見交換および概要整理について
 - (2) 部会のスケジュール(案)について

1. 挨拶

【事務局】

- 前は、何をアピールするのか、そのコンセプトを話してもらった。特に印象に残ったのが、医療職やセラピストとの対比について、医療職は患者が良くなるのが喜びだが、介護職にとっての喜びは何だろうかという話。介護して改善される方もあるかもしれないが、状態が悪くなっていくこともある中で、介護職が目指しているものは、状態を改善させることではなくて、人生の最後の段階になるまで1日1日をしっかり生きていくというのを手助けすることだと。それが、本人に寄り添うという介護職のやりがいや喜びなのかなと皆さんのお話を読んでいて思った。
- 今日、コンセプトからまた一歩進んで、一体どういうことを具体的にやっていくのかについてご意見をいただければと思う。

【初出席委員自己紹介】

【滋賀県青少年広報レンジャー自己紹介】

【オブザーバー】

- 普段は介護に全く関わっていないが、卒論で、福祉施設が土地の安いところにあることや水害に遭いやすいところにあるのではないかと証明して、各福祉施設がどのように避難すれば良いか提案しようと思っているので、そこで少し福祉施設に関わっている。
- 学生目線で介護のイメージなどについて、話せればと思っている。

【オブザーバー】

- 歴史学科なので普段は福祉と遠いところにいるが、福祉関係の情報も知りたいと思っている。
- 学生として、また、情報がない側としての意見も出せたらと思う。

2. 議題(1) イメージアップ施策にかかる意見交換および概要整理について

【委員】

- 「多様な人材」について、海外だけでなく定住外国人も含めてもらえればと思う。
- 定住外国人向けの介護職員初任者研修を開催しているが、既に工場やホテルで働いている方が、研修中でも構わないから介護の仕事に就きたいという方がたくさんいらっしゃるの、足元である滋賀県にいる方にも介護の魅力をアピールできたらと思う。

【部長】

- 現状のイメージは全てマイナスの整理になっているが、実際はプラスのイメージもあるのではと思うが、今回の事業としてあえてマイナスのイメージを挙げているのかなと感じる。
- 労働環境とか職場環境の中で、ICTなどの活用が進みつつあるので、そういう部分についても加えてもいいと思う。そのようなイメージがないのではと思う。
- 前回、滋賀県としてどうあるべきという発言が複数委員からあって、それをどう反映させるかというのはなかなか難しいが、その部分がなんらか必要ではと思う。

【副部長】

- 前回の部会後に、いろいろな方に介護のイメージについてご意見をいただいた。少し高齢の看護師からは、看護も昔は日本の中でイメージが悪く、勤めようと思ったらやっぱり親に反対された。看護はそれから歴史を積み重ねることによって、イメージは変わってきた。今では白衣の天使と呼ばれるようになった。昔では考えられないような時代だったと聞いたときに、介護も今こういう風に私たちが悩んでいることも、いずれはなくなるのかなとは少し思った。
- 看護に比べて、見たら介護職員だとわかるような制服があるわけではない。生活を見ていく中では、職員が私服でいるということはすごくいいことだと思うが、社会的地位のことを考えると、制服を作ったほうが良かったのかなと思った。
- ターゲットを若者にすることはすごくいいと思うが、どれだけ若者にイメージを植えたところで、結局、介護のイメージを悪くしているのは僕らの世代ではないのかと思う。僕らの世代に対するアプローチもあった方がよいのではと少し思った。もちろんまずは若者がなりたいと思うところがないとだめだと思うが、親や尊敬する先生がこの業界に来るのを止めてしまえば、なかなか人材確保にはつながらないと思っている。

【委員】

- うちの会社でも今新卒採用しているが、今の大学新卒の方は就職について親に相談するらしい。親が反対したという声も聞いた。お二人は、就職について相談するか。

【オブザーバー】

- 私の家族はどちらかというと、まず自分で考えて出した結論について親に意見を聞いてみる。反対されたときは、兄弟も含め色々な人の意見を集めたほうがいいと思うので、意見を聞いて決めようと思う。

【オブザーバー】

- 私は就職の事は、親にももちろん言っている。今目指している職業も、親から就職するよう言われたわけではないが、親からなっってほしいと言われたことをきっかけに興味があった。
- 介護についてはイメージがない。保育士とは保育園で関わるし、小学校の職場体験でも保育士や消防士などあるが、介護に職場体験しに行くことは多分ないと思う。そういうことを含めて、介護に関わることが少ない。公務員のように、イメージが付きやすいものを目指しやすいのかなと思う。介護に私らの世代が関わることは、全くなくて、普段会うこともなく、施設の前を通っても何かあったんやぐらいの感覚だと思う。職場体験で小学生や中学生に、まず介護の場に行ってもらうなどが大事なのかなと思う。

【部会長】

- 今お話いただいたところは、この事業の大事な部分である。現状のイメージとその一方で私たちが伝えたいことや魅力という部分も一応整理しているが、これを見て、どんな感想を持たれたのか、お二人にお聞きしたい。

【オブザーバー】

- 誰という欄の介護現場を担う人として、高校生、大学生に福祉学科以外も含むとしてあるが、国家試験を通らないと介護職になれないというイメージが強い。3年生の時に介護体験に行って、3年間働いたら試験を受ける資格が与えられるということを始めて知った。
- 文学部に通う学生が医者になろうと思わない。専門性のある学部に通わない人は、介護職になれるということをまず知らないと思う。イメージが悪いという前に、介護職を選択肢できることを知らないことが、一番のハードルではないかと感じる。

【委員】

- 先ほども東委員がおっしゃったように、現場職員の方が他業界の方から尋ねられた時に、しんどいんだと答えていると結果的にマスメディア等に出されているイメージを裏づけさせるというか、当事者がそういうことを発信していると悪いほうに作用するのではないかと思う。
- このイメージアップ戦略で、このようなポジティブなメッセージを出すことは非常に賛成だが、一方で、今言ったようなことが現場であるのであれば、発信内容と現場の乖離の大きさが、よりマイナスのほうに作用してしまうことが危惧される。
- これはこのイメージアップ戦略とは別の話として、労働環境、職場環境等そういったものについても、地道に進めてはいるものの、当事者発信といった部分も十分気をつけられないといけないのかなと思うので、誰に伝えるかということでは現任の方に対しても発信を行っていかないとと思う。
- また、うちのほうもいろいろ施策はしているものの、先ほどおっしゃっていた介護職へのルートの話については、高校のほうに出前講座等行っているが、学校のほうにアプローチしても時間をいただくことが非常に難しい。その中でもいただいた時には、

発信をしているが、地道にひとつひとつやっていかないとと思う。

- そういう意味では、教員などに伝えて、生徒さんにつなげる場づくり等を人材センターは行っていかないといけないと感じている。

【委員】

- オブザーバーに伺いたいが、最近テレビ等でお笑い芸人の方が謹慎になられて、介護を始めたことが報道されているが、人のために役立つ仕事みたいなイメージが一般的にあるから、その方たちも行かれるのかなと思ったり、お笑い芸人さんのような方が介護をしていたということで取り上げられたり、ということテレビで目にするが、どんな印象をお持ちなのか。介護は人のためになることというふう若い方に結びついていくのではないかとと思うが、もし何かあれば。

【オブザーバー】

- 介護は地域貢献という意味では、人のためになる仕事であるという認識は多くの若者にあると思うが、どちらかというとなりがいや地域貢献を重視する学生は少ないのではと考えている。
- 先輩の就活状況を聞くと、初めに来るのは、給料がいくらのところを受かったかどうか。イメージ戦略をしっかりとしていく必要はあると思うが、現実的なところを重視する学生が私たちの世代には多いのではないかとというのが正直な感想。

【オブザーバー】

- 人のためになるというイメージはもちろんある。私は今ほど言われたことと反対に、お金もらえるから働くよりは、どちらかというとなりがいを重視したい。この二人ですら分かっているくらいなので、どちらかに焦点を当てるのは難しいのではないかとと思う。
- お金がもらえれば、みんな介護職を目指すのかということそうではないと思う。お金でどれだけみんなが動いているかというのは、お金あげたから、去年よりも何%増えましたというデータがあればいいが。

【委員】

- 若い方を中心に取り込んでいきたいという意見に関して、委員も言われたように、私たちが楽しんでいないと介護の魅力を幾ら言ったところで、介護に興味を持たれている方は別かもしれないが、そうではない方にはイメージや興味を持ってもらうことが難しいと思う。
- 私自身も学生時代や介護の仕事に就く前は、介護施設や事業所の雰囲気や行われていることが見えず閉鎖的な印象があったので、直接介護そのものから入るのではなくて、少し中の雰囲気を見ていただくとか、イベント等を通じて、職員と利用者さんが一緒に楽しんでいる場面を見ていただくだけでも雰囲気は分かるのではないかとと思う。現場で働く私たちが、敷居を低くしていかなければならないと感じた。

【委員】

○ブラックな話になるかもしれないが、介護の現場で人の資質というのは余り高いというふう感じてなくて、人がなかなか採用できないので、とにかく誰でもいいから採用しておこうか、うまくいけば続くし、ものになるし、みたいな雰囲気がある。やはり一定の資質を上げないと、全体的にも、見た目も、内容も伴ってこないんで、幾ら良いイメージで着飾って作ったとしても、本当の意味での向上を目指すというのは難しいと思っているので、一定、面接時にその人が介護に向いているのかどうかの見極めもしながら、そういう人材を育てていかないといけないと思っている。

【部会長】

○本質の課題の一つとして、そういった中で我々がどうイメージアップしていくかについて、現状も無視せずにきちっと向き合っていないとなかなか難しいのかなと思う。

【委員】

○40代50代の年代にはイメージ悪い。大学生の方にはイメージ無い。先ほどおっしゃっていたように就職するときは、親に相談するので、負のスパイラル。そのときに、大学生にはイメージを持ってもらわないといけないし、40代50代のマイナスイメージのところにはできる限りプラスのイメージを植えつけないと、負のスパイラルが、解消されないのではないかな。

○どこにといいよりも、年代に合わせて本当はイメージアップを図らないといけないのかなと、今話を聞いていてすごく思った。

○業界の40代50代が変わっていかないといけないと思うし、外の40代50代の方は、福祉は給料安い、大変というイメージがあるのではないかな。

○先週末に、短大の卒業予定の子がインターンシップに来た時に、選んだ理由を聞いたところ、40代前半ぐらいの親から、今人手不足なのでとりあえず就職できるかもしれないから1回行ってみたらと言われたからだとのこと。

○外にアピールできていないだけで、中で働いている40代50代の職員は皆楽しんでいると思う。楽しいから働いていると思うので、それを外の同じ年代の人にいかに出していくかをしないと就職に繋がらないと思う。

【部会長】

○私は、誰にとどのどのような方法でというところで感じるのが、今まで接点のなかった方たちに何をどう発信していったらいいのかというあたりは、先ほどもオブザーバーのお話にもあったが、本当になかなかこの業界に目が向かないという、そこにどのようにアプローチしていくかにおいて、誰にといいあたりはかなり意識しないと難しいと思っていたところ。

【部会長】

○前回の議論をさらに深めていただく中で、一つ新たなポイントとしては介護業界自らがイメージを変えるというか、発信を変えるのであれば、業界自体も変わらないといけなというような意見も新たに出たところと、今日お二人来ていただいて、学生目線で貴重な御意見をいただいた。

【委員】

- 私もまた 10 月にむすびフェス&マルシェもやるが、そういう中でも若い方から 40 代 50 代の方も来られる。直接介護している姿を見ていただくのではないが、取っかかりとしては、軽く関われるほうが気を張らなくて済むと思う。
- アンケートをとったときに、介護は 3K のイメージを持たれている 40 代 50 代の方おられたが、喋っていたら、私でもできるかなという意見はもらった。施設見学に行かれた方もおられたので、前向きに考えていただけようになったかなと思う。

【オブザーバー】

- 介護体験に行ったが、行くときとすごくイメージが変わる。行った施設が良く、利用者さんが楽しそうなのはもちろんだが、やはり働いている職員さんが良かった。
- やはりテレビを見ているとつらいとか、給料安いとか、暗いイメージを持つし、正直あまり行きたくはなかったが、どんな仕事なのかかわかると全然違う。だから、お風呂の介助であったりだとか、当たり前なことに気づけていないところがあったりするので、イベントとかするのはすごく良いと思う。
- 先ほどオブザーバーと話していたのは、ドラマとかで、そういったドラマが介護の場合には多分あるのではないか。
- 先ほどの委員のイベントは、告知ありで集まったのはすごいと思う。告知なしで集まらなくても、通っただけでも参加できるような形でもいいと思う。興味ある人しか来ないので。服、ついでにカフェ、ついでに見たいな形にすれば若者も来やすいのではないかと思う。

【オブザーバー】

- どういう場に行きたいかという話で、ローカルインターンシップという、滋賀県湖北の株式会社がやっておられるインターンシップに行った。2、3人の学生から工業系の 8 企業に対して、どういう採用戦略をしたらいいのかを提案するインターンシップ。そういう学生が行く場所に介護士さん等が行けばいいのかなと思っている。
- また、その会社がやっているぶっちゃけというのがあがるが、そこなどに介護士さん自身 1 人とかでも行かれて、そこで働くことについて喋るとか。学生はラフに話せる場がいいのではないかと思っている。合同説明会などは説明を聞くだけで、何となく質問もできないし、相談もできないので、働いている側から学生が行く場所に行ってもらえば、わざわざつくらなくてもいいのかなとは思った。

【オブザーバー】

- 聞いた話で、学童で 6 時以降になったら介護のところに、子供ら連れて一緒に行っておじいちゃんおばあちゃんと一緒に御飯を食べて、地域交流という形でやっていたが、それによって小学生のころから介護に対するイメージの定着はできていくのではないかと思う。
- 介護の業界に入ろうと思った方でも、昔からおじいちゃん子、おばあちゃん子だったからという方もいらっしゃるの、おじいちゃんおばあちゃんに対する、愛着などそ

ういふがあると、ちょっと行こうかなというきっかけにも繋がるのではないかと思う。

【委員】

○今年の1月に、東近江圏域の三方よし研究会という医療福祉の研究会で、住民さん向けの啓発を何かしたいということで、介護のことや看取りのことを住民さんに知ってもらえないかということで、ケアニンという映画の上映会をした。

上映会プラス対談ということで御案内をして、私たちとしては、あまり集客が見込めないと思って、500人ぐらい入る会館を用意して、200人入ったらいいだろうなと思っていたら、思いのほか400人ぐらいの方がいらっしやった。来られた方も医療福祉関係者だけではなくて、純粹にポスターとかを見て興味あるかなとか、何となく来ようかなという方が来られた。

○アンケートでは、介護における葛藤などを通して感動したとか、介護はこんなに魅力があったのですねみたいなコメントがたくさん並んでいたのは驚き。前回部会の時に、海猿というドラマがあって、それを見た学生さんや社会人の人が仕事をやめたりして転職された方がたくさんあるっていう話をしたが、ケアニンもそれと同じぐらいの魅力のある映画かと思うので、例えば、そういうわかりやすい映画のように、入り口は広く気楽に介護ってどんな魅力あるのかを知ってもらおう機会があってもよいのかなと思った。三方よし研究会でやったときは、一応一定の成果があったのかなと思っている。

【副部長】

○介護福祉士会もイオンモールでイベントやったりする。ファッションとかそういうのを組み込んだ中でのイベントっていうのは、すごくいいと思っていた。イナズマロックフェスに介護福祉士会で行ったりとかした割には、正直やった人間だけの達成感で終わってしまうところは少し見受けられたので、結局したいのはもちろん人材確保だが、そのイメージの植え付けなので、トレンドドラマがだめなのであれば、僕はメディアを使うのが1番と思っているので、CM作るとか、そっちの方向で行くほうがイメージがつくのではないかと思っている。

【事務局】

○先ほども前の議題で少し触れたように、イベントやテレビ放送というのは、これまでに無かった取り組みなので、ご意見いただければと思う。

○そのほか、広く集客した後につながり続けていく方法というのも、大事だと思っているので、この表でいう共感のところの情報が欲しい方などへのアプローチも必要ではないかと考えている。

○例えば学生さんは、普段どのような方法で情報収集しているのか。例えばこういう流れを見たときに、自分に情報が入ってきそうだなと思うか。

【オブザーバー】

○個人的な意見だが、フェスタ、交流会などは興味のある人だけで、そこから人材をと

ることや、そこに魅力が伝わるっていうところは良いが、全く興味ない人に関しては、手が出しづらいというか、その参加に応募しないといけないというような状況だとハードルが上がってしまうのかなというところ。

○動画配信に関して、目的を持って見たいものを見るので、介護に興味がない人はまず検索しない。

○私たちが、就職したい時などはリクナビとかそういったものから、大学のキャリアセンターに相談したりするので、そこからいうと難しいところもあるのではないかなと思う。見てみないと、行ってみないと、触れてみないと魅力っていうのは伝わらないのかなというのが、介護体験に行った私の感想です。

○見ているだけでは、ほんまに人材足りないから必死なんやなみたいな。CM見ている、人材ないから良い印象持たせたいんやなという裏の意図が見えてしまったら良くないと思うので、そこはどうかして、介護士さんや本人が、直接会える場というのが、大変で一番地道にはなると思うが、効果は高いのではないかなと感じる。

【オブザーバー】

○今山路さんおっしゃったように、ターゲットで介護職のイメージを持っていない若者とするのであれば、適切ではないのかなと思う。

○やはり、興味があるから見るものであって、興味があるから音楽フェスタとかもいくもので、映画ももちろんそうだと思うし、どこにターゲットを絞るのかによるが、興味あるけど就職しない人に対する場合は、これもうまくいくし結果も出るのかなと思うが、どこまでこの幅を広げるのかを明確にしたほうが良いと思った。

【委員】

○興味持っていない人にも興味持たせるためには、伝え方なのかなと思う。例えば極端な話、動画配信で部会委員が介護について熱く語っているのと、有名芸能人が語ってくれたらどうですかとなったら、興味ない方でも見ると思う。

○メディア使ってCMなどでもいいと思うが、1回だけじゃなくて複数回していく中で、例えば滋賀の介護といえはこの人というのがあると、やっていくうちに興味なくても、何かの生活の中できっかけとかになっていくとおもしろいのではないかなと思う。

【部会長】

○私もそういう部分だと思うんですけどね。イメージを持っていない若者がたまたま出会ってしまうみたいな感じの状況をつくらないと、増えていかないのかなと思う。全てそれがうまくいくということはもちろんないので、たくさん接点を持つ中でそういうきっかけができ、またつくるとするのが大事なかなと思って聞いていた。

【委員】

○逆にどんなものであったら見るか。うっかり見た、みたいな。

【オブザーバー】

○CMでもいいところをアピールするのは良いと思うが、良いとこばかり言っても、で

も、っていうふうに若者は思ってしまうので、真摯に良いところも悪いところも両方映す。真摯に向き合うよっていう姿勢があったら、ほかの企業さんとの違いを見せられるのかなと思う。

- イベントでも、ふらっと参加するというものだと、効果なかったじゃないかみたいな話にはなるかもしれないが、やはり応募しなくちゃいけないというのは難しいと思う。
- だから、ハードルを下げるというのを一生懸命やった方が効果が出るのではないかと
- ドラマなどはリアルさが伝われば効果が出るのではないかと

【オブザーバー】

- 私は結構テレビ見る派で、YouTube は全く見ない。周りは結構 YouTube 見ているが、やはり自分が見たいものを見ている。あと、下宿生は家にテレビがない子がいたり、あってもコンセント抜いていて見ない子もいる。実家だとテレビは常についていて、私は見るし、CMも見る。

【オブザーバー】

- 私は夜ぐらしか基本的には見ない。御飯食べている時間帯などは下にいるが、基本、自分の部屋にいるので余り見ない。ただ、見ている方はすごい見ているらしい。
- 学生のある興味のある番組であれば、その間のCMの枠があればいいのかなと思う。

【委員】

- BBCは見るか。我々は割と見る。

【オブザーバー】

- あまり見ない。親世代が見ているのであれば、その世代へのチャンスでは。

【オブザーバー】

- 先ほどおっしゃっていた介護の日は何かされるのか。
- 私は卒業研究に関連して川の話をしていることもあるが、川の日だと先生からイベントに参加しないかと言われるので、何とかの日というのは効果があるというか、なぜ介護の日が広まってないのかなと思う。

【部会長】

- どういう方法でというあたりは、まだ整理しきれてないところもあるがイベント、テレビ放送、動画配信も含めて、そういった意見の中で、広報レンジャーからいただいた意見も参考にしつつ1回整理をしてということよろしいか。
- 資料3については、例えば資料2のほうであったイメージアップ策を波及させるということできけるのではないか。

3. 議題（2）部会のスケジュール（案）について

【部会長】

○従来からのマスメディアの部分と、新規のマスメディアの部分の活用をしていくというあたりと、もう一つやり方次第だが、イベント等の部分についてもちょっと残しつつ、方法をいろいろ考えればやりようによっては効果があるのではないかと思うので、この辺で、今後議論を進めていきたいと思うが皆様、そんな感じで、よろしいか。

(異議なし)

※資料4により実地調査について事務局から説明

(調査員を選抜し、他府県の介護の日関連イベントを現地視察)

【部会長】

○これは前回にお話はなかったところで、介護の日に合わせたイベントの開催現地に行って調査して、それを参考にするという動きをとるとのこと。ついては、調査地はまた具体的な話が今後ということだろうが、調査員のほうを決めていきたいと思う。私としてはやっぱり各団体のバランスも大事であり、できれば各団体から、1名ずつ、御推薦をいただきたいと思う。

【部会長】

○調査員を出していただいたが、今後具体的な検討作業に入っていく中で、恐らく先ほどの調査員の方が中心的な役割を担っていただくような形にはなると。
○あと広報レンジャーの方はどうか。調査は関わっていただくのか。できれば調査などにも顔を出していただけると客観的に何か意見もいただけるかなと。

【事務局】

○今後の関わっていただく方法も含めて、広報課と相談したい。

【事務局】

○今日はいろいろな御意見ありがとうございました。どういった手段でやっていくのかというところの御意見いただいたが、私は始まる前は介護職の魅力を伝えるというのは現場に来てもらうしかないのかなと思っていて、インターシップ寄りの気持ちがあったが、広報レンジャーの方から、登録や応募をしないといけないのはハードルが高い、何も興味を持ってない人に来てもらわないといけないという話もあった。委員おすすめのマスメディア、ドラマ制作も予算との関係を見ながら、検討の俎上にあげたい。
○ただ、その際にコンテンツが非常に重要で、私もこれまで啓発関係で動画制作などもやってきたが、結構いい動画をつくってもあまりアクセスされなかったりもした。ケアニンについても、こういうふうに乗組などやって、実際行ってみると本当に良い映画だなと思うのかもしれないが、来るのはやはり興味がある人なのではないかという、そのあたりどうしてもハードルがあるなと思ったところ。

○費用対効果も考えながら、また検討を進めていければと思っている。次回以降調査をということだが、既にやっている広報活動も非常に効果的なものもあるんじゃないかなと思っている。例えばこの間、女性活躍推進課でマザーズジョブステーションと共催した介護職の説明会で、八起会さんの説明がものすごく良くて、その前年にマザーズジョブステーションを通して就職をした方がプレゼンされたが、もうそれは非常に良かったので、終わった後にその人の周りは10人ぐらい集まって話を聞く、というような話もあった。あと例えば湖北のほうだと青祥会さんが小学校で介護の授業をされているという話や、滋老協の会員さんのところでも高校生のインターンを受け入れているなどの話もあって、今取り組んでいるもので、もっと拡大しても結構効果的じゃないかと思うものもあるので、そのあたり調査していただいて、また検討を深めていければと思う。

以上